

難治がんの組織 1 細胞解析による治療抵抗性の解明に関する多機関共同研究

1. 研究の対象

20 歳以上の方で、2007 年 7 月～2023 年 12 月に新潟大学医歯学総合病院で卵巣がんの手術治療を受け、術後補助化学療法をうけられた方、及び

2015 年 1 月～2023 年 12 月に帝京大学附属病院で卵巣がん、大腸がん、または胃がんの手術を受け、術後補助化学療法をうけられた方。

2. 研究目的・方法

研究目的：難治がんがどのようにして治療が効かなくなるか、そのメカニズムを明らかにすることです。

研究方法：帝京大学、新潟大学において、研究対象者の診療録から治療歴などの診療情報を抽出し、同時に臨床診断に用いた病理検体の残りを東京大学、国立がん研究センター研究所に送付し、先端的な組織一細胞解析を行います。得られたデータは帝京大学、新潟大学において統合解析を行います。これらの結果は国立がん研究センターに送られ、より詳細な解析を行う事により、がんが抗がん剤に効かなくなるメカニズムを明らかにし、今後の診断治療に役立てます。

研究実施期間：研究許可日～2027 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療内容 等

試料：がん病理組織ブロック

4. 外部への試料・情報の提供

他の機関への試料・情報の提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、各機関の研究責任者が保管・管理します。本研究で用いた試料・情報を国内外の機関で実施する将来の医学的研究のために、研究終了後も大切に保管させていただきます。新たな研究に用いる際には、国内外の規制に則り、あらためて研究計画書を作成して研究倫理審査委員会の承認や研究機関の長の許可を受ける等、適正な手続を踏んだ上で行います。

なお、新たな研究の概要・研究機関については、新たな研究に関わる機関（試料・情報の授受を行う機関すべて）公式ホームページ等にて情報公開いたします。

国立がん研究センターが参加する研究の公開情報については国立がん研究センターの公式ホームページより確認することができます。

<https://www.ncc.go.jp/jp/>

5. 研究組織・研究責任者

国立がん研究センター研究所 分子薬理研究分野・独立ユニット長：関根 圭輔（研究代表者）

帝京大学 先端総合研究機構・教授：岡本 康司（研究責任者）

新潟大学 医学部・産婦人科・教授：吉原 弘祐（研究責任者）

東京大学 大学院新領域創成科学研究科・メディカル情報生命専攻・教授：鈴木 穰（研究責任者）

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1 国立がん研究センター研究所

分子薬理研究分野 関根 圭輔（研究責任者）

TEL 03-3542-2511（代表）/ FAX 03-3542-2530

研究代表者

担当者氏名：関根 圭輔

担当者所属：国立がん研究センター研究所

がん細胞システム研究ユニット

住所：〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

電話：TEL 03-3542-2511（代表）